

大学DX期の学習支援・教育改善 ――

## 教育・学習データ利活用の新展開と実際

～ 利活用ポリシー／システム設計と運用／個人情報保護／学習分析（LA）～

【9月7日（火）開催】

ご参画・ご派遣のお願い

2020年代の高等教育界を“DX”なるキーワードが席捲しております。“デジタルを活用”した“大学・高等教育の高度化”であります。

近年のLMS（学習支援システム）、eポートフォリオ、学習ログ分析ツール等の進化は、昨年来の新型コロナウイルス禍におけるオンライン授業の本格展開の中で、“教科書・教材のデジタル化”を加速し、教育・学習データの一元管理データベースの構築が各大学等で取り組まれております。学内における教育・学習に係るデータやエビデンスは莫大なビッグデータとなっております。

一人ひとりの学生への個別最適な学習支援に向けた教員各位の尽力・精励とともに、個人情報保護のための匿名・非識別加工した諸情報の活用による教育改善に向けた学習分析（LA）及び教学IRに係る人財の要請が急務となっております。

昨年9月に日本学術会議 心理学・教育学委員会・情報学委員会合同教育データ利活用分科会から「教育のデジタル化を踏まえた学習データの利活用に関する提言―エビデンスに基づく教育に向けて―」が公表されました。本提言は、初等中等教育から高等教育までを含めた学習データを対象としております。学習データの「種類と教育改善のための利用」、収集・利活用の「制度設計」「情報環境の整備」「人材の育成」等で構成され、参考資料1～14が添付されています。

また、昨年10月に、大学ICT推進協議会（AXIES＝アクシーズ）学術・教育コンテンツ共有流通部会が「教育・学習データ利活用ポリシー」のひな型の策定についてを具体的に提言しました。教育・学習データ利活用の「宣言（ひな型）」「8原則（ひな型）」「ガイドライン及び同意書（ひな型）」「匿名加工情報・非識別加工情報の利活用に関するガイドライン及び同意書の作成及び第三者提供（ひな型）」等で構成されています。

2021年3月に東北大学では教育・学習データの「利活用（EDU）宣言」「取扱8原則」「利活用ポリシー」を策定・公表しています。九州工業大学や九州大学等においても、「ポリシーの策定」の素案作成と検討が進行しております。

さて、本セミナーでは、3人のコアパースン各位にご出講いただき、最新情報のご提供とともに今後の方向性について論点賜われます。

第1講では、日本学術会議の提言の執筆に協力された久富望氏（京都大学）に、教育・学習データ利活用の「背景」「全体像」に係る基調報告とともに、「教育DXの近未来」について論点いただきます。

第2講の上田浩氏（法政大学）からは、「学習データの利活用ポリシーの必要性」「国外の事例」、AXIESにおける「利活用ポリシー」の策定、「法政大学のLACの取組み」、そして「今後の展望」について論点いただきます。

第3講の島田敬士氏（九州大学）からは、2014年、先進的に基幹教育院に設置された「ラーニングアナリティクスセンター（LAC）」が本年4月から「九州大学LAC」としての全学組織に改組した経緯、「研究開発」「システム運用」「データ管理」の3部門の役割と体制、そして今後の展開について、論展いただきます。

本セミナーの参加方式は、「当日会場参加」・「当日オンライン参加」・「メディア参加」の3形式をご用意しております。

パンフレット版（PDFファイルです）は下記をご高覧願います。

<http://chiikikagaku-k.co.jp/kkj/seminar/210907.pdf>

(2021.8.18)